

第3問 答案用紙<1> (経済学)

問題1

問1

$$pc = w(\bar{L} - L)$$

問2

$$\frac{1}{3}\bar{L}$$

問3

代替効果：

賃金の上昇は余暇のコストつまり機会費用の上昇を意味するので、
余暇の減少、労働供給の増加をもたらす。

所得効果：

賃金の上昇は実質所得の増加をもたらす、上級財である余暇の増加、
労働供給の減少をもたらす。

全体の効果についての説明：

労働供給の水準 $N = \frac{1}{3}\bar{L}$ より明らかなように、賃金 w は労働

供給 N に影響を与えない。代替効果と所得効果が相殺されて労働供給量は不変となる。

問4

$$pc = w(\bar{L} - L) + \pi$$

問5

x財の需要量：

$$\frac{w\bar{L} + \pi}{3p}$$

労働供給の水準：

$$\frac{1}{3}\bar{L} - \frac{2}{3w}\pi$$

問6

労働投入量：

$$\left(\frac{p}{w}\right)^2$$

生産量：

$$2\frac{p}{w}$$

利潤：

$$\frac{p^2}{w}$$

問7

$$\frac{w\bar{L}}{3p} + \frac{p}{3w}$$

問8

$$\left(\frac{5}{\bar{L}}\right)^{\frac{1}{2}}$$

第 3 問 答案用紙< 2 > (経 済 学)

問題 2

問 1

規模に対して収穫逓減の生産関数とは、すべての生産要素投入量をn倍したときに、
産出量がn倍未満にしかならないような性質を持つ生産関数を指す。

問 2

$$b + c < 1$$

問 3

資本の平均生産力の方が大きい。資本の平均生産力は、 y を K で割れば求められるので、
資本の平均生産力 $=aK^{b-1}L^c$ となる。資本の限界生産力は、 y を K で微分すれば求められる
ので、資本の限界生産力 $=abK^{b-1}L^c$ である。以上より $\frac{\text{資本の平均生産力}}{\text{資本の限界生産力}} = \frac{1}{b}$ となり、題意より
 $0 < b < 1$ であるから、 $\frac{1}{b} > 1$ 、よって資本の平均生産力の方が大きいことがわかる。

問 4

$$(b + c) \left(\frac{r}{b}\right)^{\frac{b}{b+c}} \left(\frac{w}{c}\right)^{\frac{c}{b+c}} \left(\frac{y}{a}\right)^{\frac{1}{b+c}}$$

問 5

1

問 6

$$p^{\frac{b+c}{1-b-c}} \left(\frac{b}{r}\right)^{\frac{b}{1-b-c}} \left(\frac{c}{w}\right)^{\frac{c}{1-b-c}} a^{\frac{1}{1-b-c}}$$

第4問 答案用紙<1>
(経済学)

問題1

(ア) 公開市場操作

(イ) 負債

(ウ) ショリッジ (通貨発行益)

(エ) フィリップス

(オ) 負

問題2

(1) 正・誤

誤っている理由

GDPではなくGNI－固定資本減耗 が市場価格表示の国民所得であるから。

(2) 正・誤

誤っている理由

消費者物価指数は基準年の数量をウェイトとして計算するラスパイレス指数であるから。

問題3

問1

$$C_1 = 200$$

$$C_2 = 242$$

問2

①

0.74

②

0.6

問3

$$\frac{Y}{L} = \frac{10}{3} S$$

問4

$$G = 90$$

第4問 答案用紙<2>
(経済学)

問題4	問1	0.48	問2	0.42%
	問3	3.33%		
問題5	問1	12.1%	問2	10.99%
	問3	10%		